

めう屋  
まじあひ  
傳授

76  
5437



76

5437

蓬之馬山人著 賣買不許

神方 仙方 神方  
めろく  
まじあひ  
傳授

神仙堂藏板

疝氣の方とげぬき方は一はかうそう呪は一はやくいやく  
 同名方は一は大使つじ系は一はおろの呪は一はやくいやく  
 痢病の方は一は雀鼠の名方は一は目がの呪は一は血どめ呪  
 虫たの方は一は既つう名方は一はよなき呪は一はあめらうら  
 月水とをは一は丑海の名方は一は虫のむね呪は一ははぬのたぬ  
 てんめん名方は一は小便志けき虫は一は表座いふまは一は落るせぬ  
 足のつゆ方は一はよまぬの名方は一はわけこの呪は一はよまめ  
 りんびきの方は一はぢりの名方は一は虫ふうじは一は辻石呪  
 強引要方は一は志やうら壺スは一はこうそく除は一はえぎり呪

○疝氣の名方

一接骨木 甘草少 此二取をけひの

せんじ用ゆきバ何やとほまぬ疝氣ふてもと  
 さつとく治さるるらめりなり

○同干蓼の名方

一干蓼大 甘草少 此二味細末して白湯かて  
 ぶりやうあつひのくせんじ呑つ

○痢病の名方

一柘榴を思焼あして五月五日朝早天ふいまぐ人の  
 くまざる水あてのむべ一代理びやうをやまざ



○蠟燭を治する名方

一むしをみてあんぎなるを天南星とあふ  
煮て大まんの煮わり汁めて一づくのべてこむ  
方の耳へるればぬちちらつてみやむりー又  
あ方なりてあ方のこくつてかうり

○女の月水とこりやうと治する名方

一女中の月のりのとごらかり口ときき、唐胡麻と一味  
細末して是のうらふちらうおれへばさつとくをだ  
るしめりかうり

○てんかんやその名方

一てんかんにあうとるとれはようやうどやうのうめよ  
いとまつるを二まいり或二十日を毎日 天南星  
橄欖 山査子 各等分 さいせつして白湯ふかきたて  
用ゆきば一う年よきて大効あり一生やゆい汁  
根と切る大必効也

○是のうら切と治する名方

一六月土用の中十日の間毎日まき石の日あつてあ  
あつくやけうとめてあしとらうさすり  
よ

○淋病の名方

甘草一分 木通一分 紅花一分 右三味つもの  
ぶくくぞんと用いてめくたし

○旅行要用の名方

一草烏頭 さいきん けいせき  
右口味さくさいのめくつてのらめてゆりくろび  
おべーしきつかろくろび

○くげふまぬきの名方

一甘草のふぶー 二多ふふー けりふぶー  
させせせ

○大便つーー兼名方

一白桃花布ー ぶふー ー ー ー ー ー ー  
ゆりたどー用いてすー

○霍乱の名方

一胡椒二三つー 毎おりらー ー ー ー ー ー  
りのたし

けつうの名方

一わらめとぞんとかきとあひてすー

○小兒五疳の名方

一やほやんふふー 紅花一分 甘草五分  
右三味つもの ー ー ー ー ー ー ー ー

○小豆 赤きと白きと

一 香附子 とくろり 湯あてのむべし

○よこ ぬきとめてさしとす

名方 北方めくかこのねと切名菜

一 貝母 白芷 此二味とせんどのむべし

又よきとくろりぬきとす

○痔の名方

一 覬のせん汁をあてなくらひてし

○志やうりと治るる名方

一 白さとうとぶらうりて甚めし

○瘡癩のまじりあひ

一 枇杷の葉と一寸四方ふきう一枚 大豆一粒

あても二まいあても其子のとりのまじりあて

衆のこくせんじ用ゆかり但しせけん小

わうさうともやるせらいつらあても右のやう

ふと極大豆を入と一寸四方あてせんじ小思

のまじりあてぬきとす

○瘡のまじりあひ

一 葉の落るハ舟たれうりれ 何べんも

よの上ハうきく 御せ付ふいし 木き

りて朝人のしやぶくまざる井のあめを  
いづかやせんへばおちるこめりかやう

○月がのまどあひ

一馬騮 此とありむまうしつふ字と書目り海の  
できたる音の是の大ゆびの危ふやくなり  
あびるふめりなり

○小思よあきと治たるまどあひ

一丙寅といふ字とてふ数うてうきまう  
らふふぶげぶあきとあむこめりなり

○子位虫のおあぬまどあひ

一西ぬ九月をあうき一き一やくのとこまうと名  
ととま川へあうすべ

○時とちう(ま月とあくまどあひ

一魚のゆへ大のまやうきかやめるあり

○虫らあびる人あままどあひ

一いさあふいだらうのあけうすりち人のいさ  
あきのあまま じうこくぶんよとてま  
うけるなり又せまう達摩とまへ

○やげどのまどあひ

一葉とんふ水とく其とよぬのしるはの池あ



大ーやうやげちあてあまき時あひらう  
けんふふふふふふふふふふふふふふ  
うけるあま

○お思むーちうどのまじあひ

あまきちあてあまのまじあひ十月よ

あまのまじあひのまじあひ

秋風あまのまじあひあまのまじあひ

あまのまじあひあまのまじあひ

あまのまじあひあまのまじあひあまのまじあひ  
あまのまじあひあまのまじあひあまのまじあひ  
あまのまじあひあまのまじあひあまのまじあひ

あまのまじあひあまのまじあひ

○あまのまじあひあまのまじあひ

一五大カ菩薩

あまのまじあひあまのまじあひ

あまのまじあひあまのまじあひ

あまのまじあひあまのまじあひ

○あまのまじあひあまのまじあひ

あまのまじあひあまのまじあひ

あまのまじあひあまのまじあひ

あまのまじあひあまのまじあひ

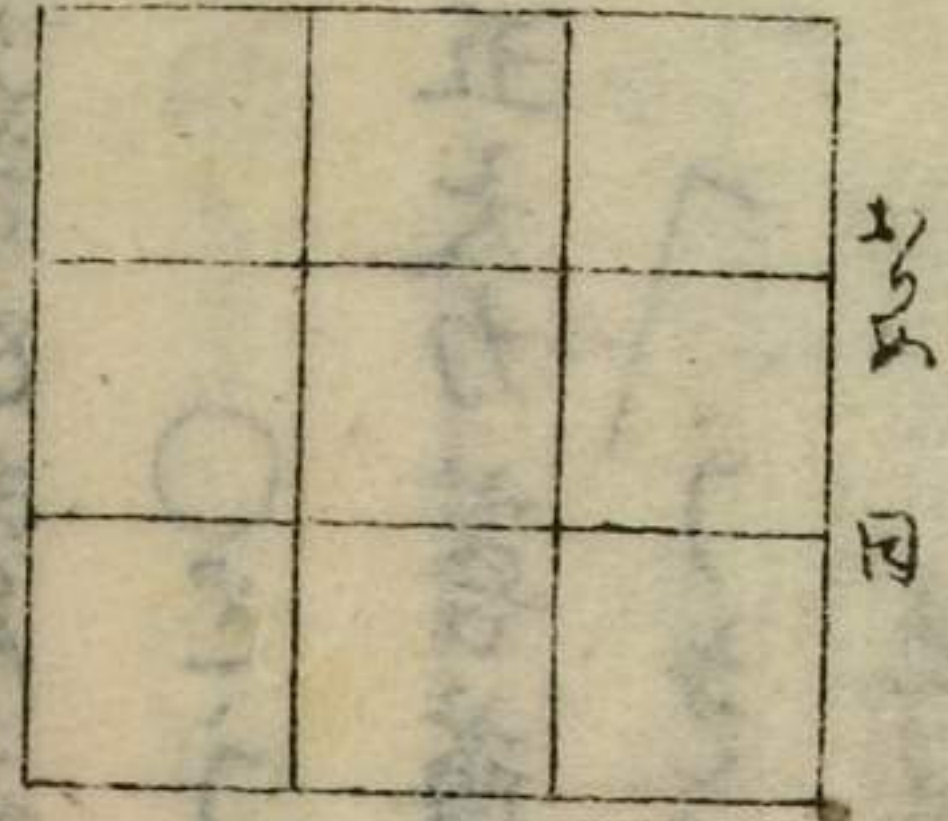
口ツトハすてべー

○やくびやうまけのまじあひ

一 籾 籾乙 け文字と紙よま門ト小

さうらゝをべー

○紙ふて血とさむらまじあひ



北通り紙と九ツ又折血あふ  
あてゝ志くくおさくて  
そくぎよとさるしめく

○あふくうらとあひまじあひ

一がけくくとるんつふてかすふあさるめうかり

○着と志くくしてほひたさぬ

まじあひ

一 梶皮一紙はさぬりこづんりそふべー  
又あひたららるあひとるんさるまじあひ

○落るせぬまじ

一さふのるまふ人のえぬやうにまじうら  
指ふてもとらふ字とこづん去てのふ

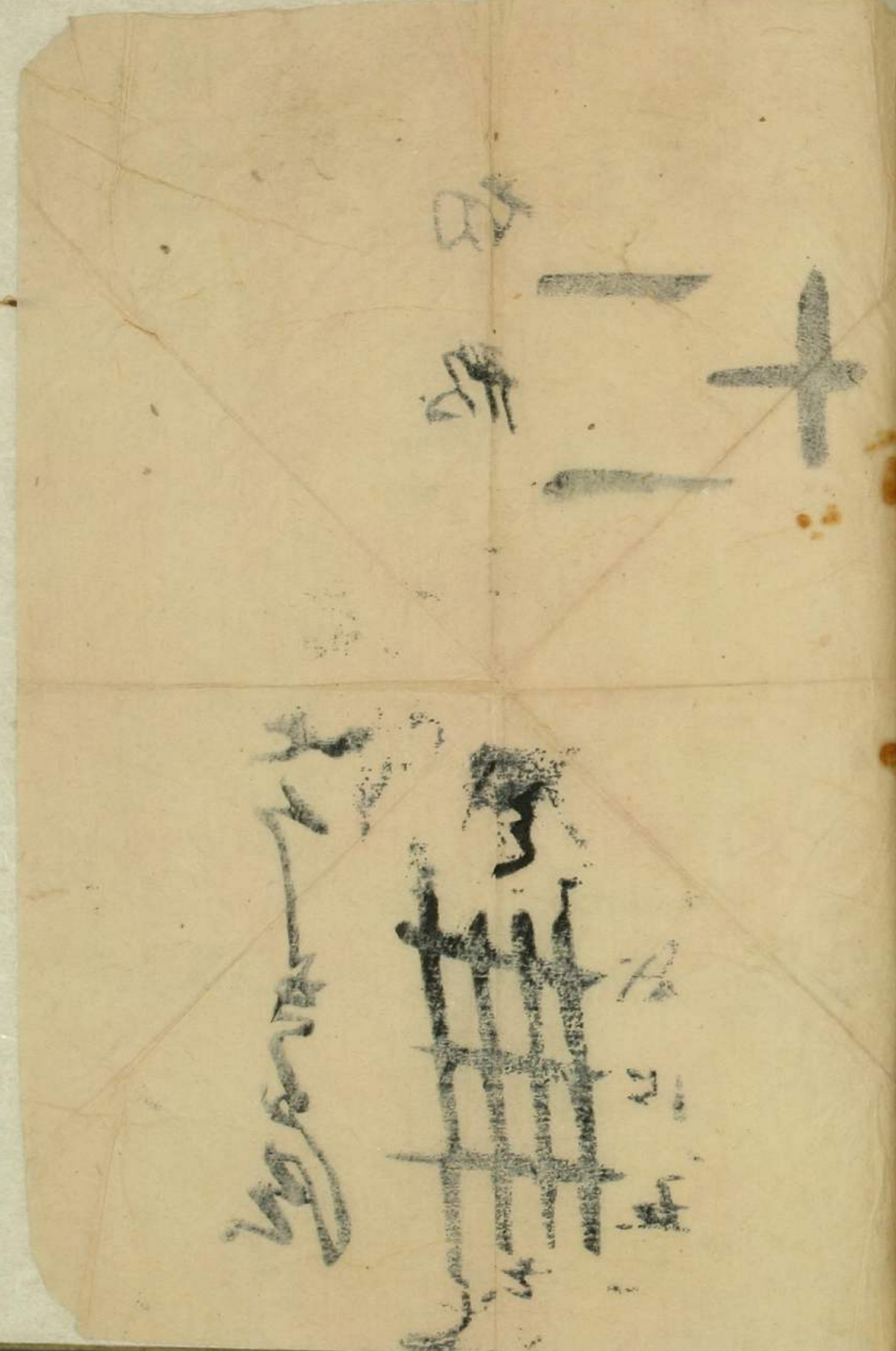
○此足のまめと申すまどあり  
 一 此のまめはこござんまめかこのまめの  
 まめはこござんまめかこのまめの  
 ねんまめと申すまめと申すあり

○まめまめのまめまめあり

一 此のまめはこござんまめかこのまめの  
 まめはこござんまめかこのまめの  
 ねんまめと申すまめと申すあり

○まめまめのまめまめあり

一 此のまめはこござんまめかこのまめの  
 まめはこござんまめかこのまめの  
 ねんまめと申すまめと申すあり



十一  
切  
形

七  
冊  
臣

